

## 2学期終業式 式辞（平成29（2017）年12月22日（金））

寒い日が続いています。

2学期のはじまりは、気候も心も暑（熱）くなる体育祭でした。ウオークフェスタの頃には、随分とさわやかになり、世界を旅した西野さんのお話季節を忘れ、“あなたのランプをもっと高く”という言葉が残る演劇講演会は、秋が深まり始めた頃でした。

元気登校してくるみなさんの変わらぬ笑顔が嬉しい2学期でした。

本当に寒い中、行われた藻谷浩介さんの地域創生講演会。みなさんの書いた感想文を、全て目を通させていただきました。たくさん刺激を受けた人も多かったようです。「イメージ」や「空気」で考えずに、データに基づくと違った答えが見えてくること、日本の多くの地域が高齢化という長いトンネルの中にある中、高齢者の増加がストップしている田舎から地域の再生が始まり、豊北町はその出口に立っていること。人生を9回裏まで考えなければならない。現役で働く時間が10万時間、その間の余暇の時間が10万時間、そして、退職後の時間が10万時間。働く時間の10万時間以外の20万時間を有意義に過ごすため、自然にふれあう経験や人とつながる経験をしっかりしておきましょうという話だったと思います。

先日、山崎亮さんという方の講演を聴く機会がありました。この方は、AI（人工知能）の話から始められて、偏差値で図られるような能力は全て、人工知能に取って代わられる。だが、スポーツをしたり、音楽を楽しんだりといった感性やコミュニケーション能力、言語ではなく、相手の表情だとか心を感じるといった広い意味でのコミュニケーション能力といったものは、取って代わられることはない。その方も、講演の最後は、藻谷さんと同じ、10万+10万=20万時間を豊かに暮らすために、自然にふれて感性を磨き、人とふれてコミュニケーション能力を高めましょうというお話でした。

そこで、人生や生活における時間ということについて考えてみましょう。

残念ながら、人には、生まれながらに裕福でお金がたっぷりある人もいれば、その日の暮らして精一杯な人など、多くのものを与えられた人とそうでない人、様々です。

しかし、時間は、ある意味、全ての人に平等に与えられていると言われます。

毎朝、日が昇ると、みなさんには、24時間という時間が与えられます。過ぎ去った昨日の24時間は取り戻せません。明日のことは分かりません。だから、与えられた今を英語では、プレゼントと言うんだという人もいます。

この24時間が365日積み重なって1年となります。

誰にも、平等に与えられる1年。しかし、その価値はそれぞれ違うように思えます。私のような50歳を超えたおじさんの1年と、いろんなことを吸収でき、計り知れない未来や可能性がまっている皆さんの1年は、使い方次第で未

来がどのようなものにでもなるという意味において重さが違うと思うのです。

進路の実現に向けてこの1年頑張ってきた、今、がんばっている3年生の皆さんは、これまでと違うこの1年の重みを感じていることでしょう。

さて、みなさんは、この1年を自分の未来のために、有意義に使えたでしょうか。振り返ってみてください。振り返ってもしょうがないよね。取り返せないんだから。

でも、心配いりません。また、新しい1年がプレゼントされます。

しかも、人類はとてつごい発明をしています。12月31日と1月1日はたった1日の違いです。しかし、大きな違いがあります。前の年に嫌な事があっても年が変わるとリセットした気分になり、新たな年のスタートを切ることができます。

皆さんとそのご家族が穏やかで平和な年の瀬を迎え、気持ちを新たに新年を迎えられることを祈って、第2学期の終業式に当たっての式辞といたします。